

資料目録

宮小路家文書目録

【凡例】

1. 本目録は、太宰府市公文書館にて複写資料を公開している宮小路家文書の目録である。
2. 目録における表記は、原則として新字体を使用し、旧字体・異体字などは適宜改めた。ただし、一部の固有名詞および原史料からの引用部分（「」を使用）については原文書の表記に従った。
3. 目録の記載項目は番号、史料名、年月日、作成・宛所、形態とした。各項目の詳細は以下の通り。
 - (1) 番 号 原則として、史料の原秩序に基づき番号を与えた。一括、同折などでまとめられていたものについては、親番号を共有させ子番号を付した。
 - (2) 史料名 史料名は各史料の原表題を採録しごチック体で示した。原表題がないものは〔〕を用いて仮表題を与えた。史料の柱書以外（封筒など）から採用した場合にも〔〕を付した。史料の概要については、史料名の後に明朝体で付記した。
 - (3) 年月日 漢数字はアラビア数字に改めた。原文書に年月日の記載はないが、内容などから比定可能なものについては〔〕を用いて注記した。なお、書簡の年代で、文書中の奥書以外のところ（封筒、消印など）から採用した場合も〔〕を付した。不明の場合は空欄とした。
 - (4) 作成・宛所 史料の授受関係は矢印「→」を用いて示した（作成者→宛所）。作成者が不明の場合は空欄とした。書簡の場合は年月日の表記と同様、奥書以外から採用したものには〔〕を付した。押印などの情報は割愛した。
 - (5) 形 態 一紙・継紙・罫紙・葉書・豎帳・横帳・綴・書綴・短冊の分類で採録した。一紙・継紙で封筒・包紙のあるものについては、形態の後に（封筒）・（包紙）のように表現した。
4. 本目録は、太宰府市公文書館ホームページ (http://www.city.dazaifu.lg.jp/admin/bunka_sports/kobunshokan/2938.html) での閲覧が可能である。

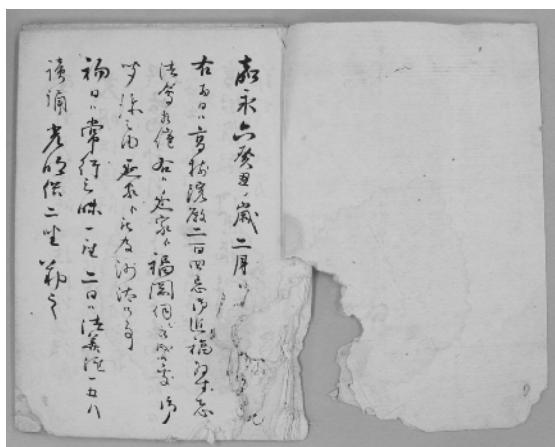


図1 [日記] (史料番号11)

嘉永6年の日記。黒田家の遠忌法要のほか、太宰府天満宮の水瓶祈禱の様子についても記されている。

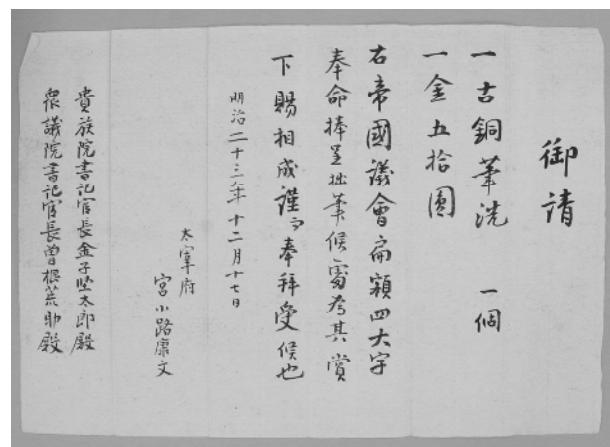


図2 御請 (史料番号12)

帝国議会扁額四大字揮毫の賞として古銅筆洗1個と金50円を拝受した旨が記されている。

【解題】

宮小路家文書は、太宰府天満宮の社家のひとつである六度寺（宮小路家）に伝來した史料群である。宮小路家は、幕末期に六度寺の僧として活動し、明治維新後に書家となった宮小路浩潮（1826～1904）を輩出したことで知られる。浩潮の事歴については『太宰府市史 建築・美術工芸資料編』と『太宰府人物志』で取り上げられており、12歳で戒を受けられ僧仙賀として修行をしたのち嘉永5（1852）年に六度寺の住職になったこと、明治維新後に還俗して宮小路康文を名のり浩潮と号して活動したことなどが明らかにされている⁽¹⁾。明治37（1904）年に死去するまで多くの作品を残した浩潮だが、とりわけ国会議事堂や平安遷都1100年記念祭における京都大極殿応天門の扁額などが有名である。

本文書群は、大きくわけて浩潮の社僧時代と書家時代の史料から構成され、明治期以降の書簡類を中心とした史料番号1から10の史料は、昭和57（1982）年度の福岡県古文書等緊急調査にて目録化されている⁽²⁾。11以降は、平成22（2009）年に太宰府市公文書館の前身である市史資料室において調査が行われ、その中に浩潮の社僧時代の史料も含まれていた。六度寺関係の史料で最も古いものは、弘化2（1845）年の比叡山延暦寺から仙賀（浩潮）に宛てた法橋上人への補任状（史料番号81）である。この時から仙賀は毎年のように新たな位に任じられ、嘉永2（1849）年には権大僧都に任じられている（史料番号82）。このほか、福岡藩主黒田家の遠忌法要を天満宮で執り行つたことを記した日記（史料番号11）や天満宮への寄付依頼状（史料番号84）、社領拝領関係（史料番号17、23）などがあり、天満宮社家の活動の一端が分かる史料として注目される。

一方、浩潮の書家としての活動を示すものとしては揮毫の依頼・謝辞にかかる感謝状や書簡類が中心となる。書簡の差出人には、幕末期に三條実美ら五卿の太宰府移転に随行した土方久元（1833～1918）、陸軍軍人で除隊後に貴族院議員をつとめた菊池武夫（1845～1955）、太宰府の文人画家である吉嗣拝山（1846～1915）や萱島秀山（1858～1938）らの名前がある。いずれも浩潮への揮毫を願う内容がほとんどだが、13歳の時に六度寺に住み込み浩潮より書を学んだ経験のある拝山からの書簡には、浩潮が滞在先（甲府）から時勢を知らせる新聞を送付してくれたことに対する御礼（史料番号42）や海外侵攻について所感を述べる内容（史料番号10-9-2）が書かれており興味深い。拝山作成の史料には、書簡のほかに月毎の詩題を一年分まとめて記した「献詠課題」もある。また、旅先にいる浩潮が家人に宛てた書簡（史料番号47、50～56）も残され、浩潮が九州、四国、関西、函館から秋田、と各地を訪問していた様子が窺える。明治維新後、太宰府天満宮の社家から還俗し、文化人として活躍した人物の足跡を知ることができる貴重な史料群である。

〔付記〕 本目録は、新出分の史料を加えて矢野健太郎氏（元市史資料室嘱託職員）が作成した公文書館公開目録をもとに、公文書館太田黒真美が作成した。

註

(1) 『太宰府市史 建築・美術工芸資料編』（太宰府市、1998年）、矢野健太郎「幕末の僧 仙賀」（『太宰府人物志』、太宰府市、2013年）。

(2) 『福岡県古文書等緊急調査報告書（旧筑紫郡）』（福岡県文化会館、1982年）。

番号	史料名	年月日	作成・宛所	形態
1	学校額面揮毫御依頼書 学校名、村長・町長名の書 上	[近代]		一紙
2	規約書ニ対スル御承認書出願 説教所設置出願に つき規約書への証認を願う	[近代]	水城村觀世音寺住職石田琳栄ほか 10名→天台座主大僧正三津玄深殿	綴
3	【書簡】 挥毫への厚礼、貴族院に掲げられている御 揮毫の写真を石版にして発行するので他日御寄贈 のこと	2月6日	福馬→宮小路先生閣下	継紙
4	福岡県旧神宮復祿請願書 福岡県内の神社の旧所 領の回復請願について、文治2年より明治3年までの 所領目録類を収録		太宰府町西高辻信巣他百六拾五名	豎帳
5	神社祭式抜粹 官国幣社祈年祭、官国幣社例祭、國 幣社例祭の式次第の写し			綴
6-1	【感謝状】 帝国議会の文字揮毫への謝辞、褒賞品目 録	明治23年12月17日	衆議院書記官長曾禰荒助、貴族院書 記官長金子堅太郎→宮小路康文殿	罪紙 (封筒)
6-2	【感謝状】 帝国議会の文字揮毫への謝辞、不腆の品 贈呈のこと	明治27年12月20日	衆議院書記官長水野遵、貴族院書記 官長中根重一→宮小路康文	罪紙
7	魚山声明集 仏教儀式・法要で唱える声楽の書、秘 曲・声明秘要抄(図解)などを収録	嘉永4年亥8月	圓境僧都之一妙書写	豎帳
8	法華玄義釈籤傍註序 卷末に「太宰府宮小路康文 書」とあり	明治32歳次己季春	普潤謹撰、貝葉書院藏版	豎帳
9-1	【記】 大乘妙典書写宝塔の揮毫下書	明治27年7月吉晨		一紙
9-2	【記】 大乘妙典書写宝塔の塔図	明治28年8月		一紙
10-1	【書簡】 野村生が出京の際の面会について	明治25年6月11日	久元→宮小路殿	綴紙 (封筒)
10-2	【書簡】 菩神御年期にあたり近衛・徳川両公爵と蜂 須賀公爵へ菅神御忠信を示し貴家の御高名を吹聴 するため 菩神の御遣戒を御揮毫し上納されたし	4月15日	知支拂〔菊池武夫〕→宮小路大先生 呈貴下	綴紙 (封筒)
10-3	【書簡】 出京の際に八王子南横町の海老野新吾様 方へ立寄ってほしいとのこと、海老野氏は同地の有 各(格)の御人なり	[明治]27年9月2日	斎藤斧三郎拂→宮小路康文殿閣下	綴紙 (封筒)
10-4	【書簡】 謹賀新禧などの歌	明治28年1月1日	八百三→宮小路貴師台下	一紙 (封筒)
10-5	【書簡】 別紙の件については兄修長多忙につき文 景らに聞き合わせのこと	[明治23年]8月4日	西高辻信巣→宮小路康文殿貴下	一紙 (封筒)
10-6-0	【封筒】 10-6-1～10-6-5を同封	1月念6	滋岡從長→宮小路康文殿	
10-6-1	【名刺】 「延暦寺住職 天台座主大僧正梅谷孝成」 とあり	[近代]		
10-6-2	【名刺】 「宮内大臣伯爵土方久元」とあり	[近代]		
10-6-3	【書簡】 本朝無題詩集にある藤原敦基・敦光の2首 について、当時の景をよく写していると評す	[一月念6]	〔天満神社社務所 滋岡從長→宮小 路康文殿〕	罪紙
10-6-4	【書簡】 本朝無題詩集中の敦光朝臣の詩の写筆依 頼	1月26日	天満神社 滋岡從長→宮小路先生	罪紙
10-6-5	九月尽日陪天滿天神祠 藤原敦光朝臣・藤原敦基朝 臣の詩2首	[近代]		一紙

10-7	〔書簡〕 挥毫の額寄贈の謝札	明治30年5月24日	京都府教育会→宮小路康文殿	一紙
10-8	〔書簡〕 依頼した揮毫拝見のこと、菅原大神の御真蹟4枚は先方へ送付してもよいかを尋ねる	20日	石田琳泉→浩潮先生	一紙
10-9-1	〔書簡〕 亡父の香典に対する御礼、藤崎君の耶馬溪画は出来につき送付のこと	5月4日	拝山→浩潮先生	一紙
10-9-2	〔書簡〕 海外侵攻について説く	2月27日	左手[拝山]→浩潮大先生	一紙
10-10	〔書簡〕 先年御揮毫の額面は坂地にても重宝に掲げていること、ほか	[明治]18年7月10日	[清岡公張]→浩潮先生座下	一紙 (封筒)
10-11-1	〔書簡〕 当地困窮もよほどの運びにいたりご安心下さるよう貴田傳兵衛・安部弥七郎兩人への添書を頼む	12月2日	松園安胤→宮小路先生閣下	継紙 (封筒)
10-11-2	〔追伸〕 当地賛成員一覧表送付のこと	[近代]	[松園安胤]	一紙
10-12	〔書簡〕 厳島神社の社殿大修理につき太宰府社における祭典その他を参考までに聞きたし	[明治35年]3月2日	嚴島神社宮司男爵浅野哲吉→太宰府神社宮司宮小路康文殿	継紙 (封筒)
10-14	〔書簡〕 有栖川宮殿下よりの揮毫御礼のことづて	3月5日	島津定→宮小路先生函丈	継紙 (封筒)
10-15-1	〔書簡〕 坂谷朗廬先生の追悼会にて知人より先生の御揮毫を願う旨を承ったので取次ぎ、また別紙にて竹香先生の詩を送るので御次韻を願う	[明治26年]5月5日	秀士幸拝具→宮小路先生玉案下	單紙 (封筒)
10-15-2	題秀氏廣東園 「秀家之宅在廣東丘…」、10-15-1の別紙	[明治]	浪華僑寓小原竹香	一紙
10-16	〔書簡〕 拙毫題字先生の名筆にて光榮を得られたとのこと	[明治28年]7月29日	久元→宮小路殿	継紙 (封筒)
10-17	〔書簡〕 皇后陛下行啓の御座所のため貴家御什宝の火鉢用立につき感謝	大正11年9月12日	福岡県知事安河内麻吉→宮小路博美殿	継紙 (封筒)
10-18	〔書簡〕 家屋新築・旅館開業祝につき招待	11月8日	沓川旅亭→宮小路康文様	一紙
10-19	〔書簡〕 出張の長浜知事と同伴打合せ	2月12日	山田卷平→宮小路浩潮先生研北	一紙
10-20	〔書簡〕 御揮毫御投与の懇願について	明治34年4月8日	武藏國熊谷町酒井惣七→宮小路康文殿執事御中	一紙
10-21	〔書簡〕 国会議事堂扁額揮毫の際の拝領物拝観依頼	2月7日	島藤良知拝→宮小路康文様閣下	継紙
10-22	〔書簡〕 楠公揮毫の碑文送付に対する御礼	5月11日	土方久元→宮小路浩潮殿	継紙 (封筒)
10-23	〔記〕 箱崎宮樓門にある浩潮の詩「皇國の…」	[近代]		一紙
10-24	〔書翰〕 小絹への揮毫依頼、御潤筆謝義など御報知のこと	9月4日		一紙
10-25-1	〔書簡〕 嗣子死去の際の香典の返礼について	明治31年10月	伯爵土方久元→宮小路康文殿	一紙 (封筒)
10-25-2	〔記〕 慈善事業に放資した香典返礼予算金の内訳	[近代]		一紙
11	〔日記〕 黒田如水や忠之の遠忌法要、水瓶祈禱執行などについて記す	嘉永6癸丑ノ歳2月～8月		堅帳

12	御請 帝国議会扁額四大字揮毫の賞として古銅筆 洗1個と金50円の拝受のこと	明治23年12月17日	宮小路康文→貴族院書記官長 金子 堅太郎殿・衆議院書記官長 曽根荒 助殿
13	御請 12と同じ内容、差出の下に印なし、下書きカ	明治23年12月17日	宮小路康文→貴族院書記官長 金子 堅太郎・衆議院書記官長 曾根荒助 殿
14	〔国会議事堂図〕 国会議事堂の図、扁額の位置や寸法 などを記載	[近代]	継紙
15	〔浩潮先生揮毫依頼人名録〕 挥毫依頼の内容・依頼 者・受取金などを記載	[近代]	豎帳
16	太宰府宮小路浩湖(ママ)殿東奥漫遊 金員受払牒 「宮小路招搜運動費用」とあり、日々の金銭支払い、明細を記載	明治30年8月	陸奥国事務係無井靈瑞
17	〔社領拝領関係書類綴〕 各寺社の配当目録や県から の寄附引上などの書類・写を集めたもの	[近代]	書綴
18	改籍之請願 太宰府神社旧神官の40名について士 族への改籍を要求	明治32年5月	石(右カ)町長齋藤寿七ほか40名→ 福岡県知事深野一三殿
19	上申書 維新の際に民籍に編入され未だ改籍の許 可が下りていない数名の士族改籍要求、明治33年12 月24日付の福岡県知事からの通達写を同折	明治35年11月12日	福岡県筑前郡太宰府町華族西高辻 信雅外四十七名・惣代同町士族味酒 俊朗・大江田美鋤→大蔵大臣男爵曾 禰荒助殿
20	旧神官家称請願書控 「書目」「証拠書類目録」「參 考書類目録」「家祿ノ儀ニ就キ請願」を収録	大正8年11月	綴
21	改籍請願書案 改籍請願に関する書案集、「改籍之 請願」「証拠書類ノ説明」「黒田長政公判帳写」など	明治32年6月	豎帳
22	〔旧社領回復願書関係書類綴〕 県からの寄附引上 の通達や公判帳の写など	[明治]	書綴
23	黒田長政公御判帳ノ写 宰府社領の社家別の配分 高について記した宰府御社領配分之帳の写	[近代]	綴
24	〔家祿請求願書綴〕 「家祿下付ニ就キ請願」「家祿末 給米請求計算書」「黒田長政公御判帳写」などを収録	[近代]	綴
25	〔獻詠課題〕 明治37年の1月～12月までの獻詠課題	明治37年	吉嗣拝山謹選
26	〔封筒〕 「獻詠課題 吉嗣拝山謹選」とあり	明治44年	
27	〔封筒〕 「獻詠課題 吉嗣拝山謹選」とあり	明治30年	
28	〔封筒〕 「獻詠課題」とあり	明治31年	
29	〔封筒〕 「獻詠課題 吉嗣拝山謹選」とあり	明治32年	
30	〔封筒〕 「獻詠課題 吉嗣拝山謹選」とあり	明治34年	
31	〔封筒〕 「獻詠詩題 吉嗣拝山謹選」とあり	明治38年	
32	〔獻詠詩題〕 明治39年の1月～12月までの獻詠詩題	明治39年	吉嗣拝山謹選
33	当社獻詠月次歌題 明治41年の1月～12月までの獻 詠課題	明治41年	吉嗣拝山謹選
34	〔書簡〕 挥毫周旋のもつれにつき即刻返書下され たきこと	[明治27年]7月22日 内藤舎丸→宮小路康文殿	継紙 (封筒)

35	〔封筒〕	明治34年1月	川畠平吉→宮小路康文殿	
36	〔書簡〕 諸事項通知につき報知、願一件は9月15日 頃に御発布になるので御休神のこと	[明治27年]6月11日	克三郎拝→尊大様	一紙 (封筒)
37	〔書簡〕 友人からの碑文揮毫依頼の斡旋、右は年回 前に建設したいのでよろしく御願のこと	5月19日	萱嶋秀山拝→宮小路康文様	縦紙 (封筒)
38	〔書簡〕 依頼の揮毫は本来直接伺って拝受すべき だが多用につき使の者を差し出すこと	3月30日	瓜生卯太郎→宮小路浩潮様	縦紙
39	〔封筒〕	28年6月30日	吉嗣拝山→宮小路康文先生	
40	〔教導職試補辞令〕	明治7年4月30日	大教正三條西季知→宮小路康文	一紙
41	記 康文先生の遺物である六角硯の贈与ありがた く拝受のこと	明治42年2月	門人柴邨準太郎→宮小路政衛殿	一紙
42	〔書簡〕 甲府新聞拝見につき御礼、拙著「寒玉音」の 回送依頼、代価は御留守宅へ返済のこと	端午[明治27年6月 11日]	拝山→浩潮様	一紙 (封筒)
43	〔俸給辞令〕 奉金7円支給	明治40年3月31日	太宰府神社 社務所→雇宮小路克三 郎	一紙
44	〔俸給辞令〕 奉金9円支給	明治42年8月31日	太宰府神社 社務所→雇宮小路克三 郎	一紙
45-1	〔書簡〕 父康文殿逝去に対するお悔やみの言葉	[明治37年]9月22日	男爵細川家家扶→宮小路政衛殿・宮 小路克三郎殿	縦紙 (封筒)
45-2	〔香花料包〕 香花料金500疋、但し為替券			一紙
46	〔書簡〕 挥毫の配布はまとめ次第郵送し、まだ済んで いないものがあれば始末がつき次第送ること	12月12日	三橋千親拝→宮小路先生虎皮下	縦紙 (封筒)
47-0	〔封筒〕 47-1~47-3を同封	[35年]7月20日午後	宮小路康文→宮小路政衛殿	
47-1	〔書簡〕 松山より近況報告、温泉だけでは病気平癒 にいたらないため場所を三津ヶ浜へ移し海水浴をして養生しているとのこと	[明治35年]6月16日	康文→政衛殿・浦との・千代との	一紙
47-2	別啓 三津浜において病気が平癒したら直ちに帰 宅したきことなど	7月14日		一紙
47-3	〔書簡〕 三津浜に引移り養生をしていたところ桑 原親実様死去の報を受けたこと	7月20日	康文→宮政衛殿・家内中	一紙
48	別啓 近日送る金のうち10円は正月着物に用いる こと、ほか	[明治36年7月14日]	〔木下勝全→宮小路康文様・同千代 子様〕	一紙
49	〔書簡〕 無事帰省したとの報告、滞坂中の心遣いに 対する御礼	[明治31年]5月23日	安仲墨邨拝→宮小路先生貴下	一紙
50-0	〔封筒〕 50-1~50-3を同封	6月11日午後	宮小路康文→宮小路政衛殿	
50-1	〔書簡〕 病気は伊予国の道後温泉で養生すること、 政衛の病気について心配のこと	[明治25年]6月11日	康文→政衛殿・浦との・千代との	一紙
50-2	〔記〕 伊予国での滞在先住所を記す	[明治]	[康文]	一紙
50-3	〔書簡〕 大阪より金30円郵送のこと、ほか	9月19日	康文→宮政殿	一紙

51	〔書簡〕 淡路国の林新七氏に同業者奨励の功賞進呈につき揮毫依頼	6月7日	宮小路克三郎ほか4名→御尊父様	継紙
52-0	〔封筒〕 52-1~52-3を同封	9月20日午前9時発	宮小路康文→宮小路政衛殿	
52-1	〔書簡〕 佐賀からの近況報告、帰宿までの予定や修行の心得の箇条書きを記載	〔近代〕	浩潮→政衛殿	野紙
52-2	〔書簡〕 謙早からの近況報告、知人の紹介	旧2月7日午前	浩潮→政衛殿	野紙
52-3	〔書簡〕 熊本からの近況報告、帰る日取りなどの連絡等記載	4月1日 旧3月17日	宮小路政太郎生→家内中	野紙
53	〔書簡〕 函館を離れて蒸気船にて秋田の方に向かっているとのこと	〔明治31年〕10月13日	康文→宮千代子殿	一紙 (封筒)
54	〔書簡〕 函館で漁業不景気および水害のため秋田へ移ること	〔明治31年〕10月7日	康文→宮千代子との	一紙 (封筒)
55-1	〔書簡〕 送った為替金30円のうち10円を水城又坐宛へ送ること、千代の病状の報告、河内国牧方での近況報告など	明治丁丙1月16日	康文→宮政衛殿	一紙 (封筒)
55-2	口上 御母上の隠栖所普請につき金10円差上のこと	1月16日	宮小路康文→水城又坐様	一紙
56-0	〔封筒〕 56-1と56-2を同封	8月5日12時発	宮小路康文→宮小路千代子殿	
56-1	〔書簡〕 父への悪口雜言に対する説教	〔近代〕	父康文→千代との	一紙
56-2	〔書簡〕 康文帰宅まで千代の田代への出行と文通を禁ずること	7月25日	康文→千代子殿	一紙
57	題宮小路翁書軸後 宮小路浩潮の功績を記す	明治32年1月念5日	後学桜洲奥村清春欽題	綴
58	〔封筒〕 「上志 秀学院」とあり	行年15年8月20日	木下→宮小路様	
59	書画展観蒸抹茶席案内図 第1席から第11席までの位置を記載した案内図	〔近代〕	挾山吉嗣先生進薦会	一紙
60	〔書簡範例集〕 新年の祝辞書簡とその返書範例、後久、63の写し	〔近代〕		一紙
61	〔記〕 「太宰府宮小路康文揮毫室」とあり	〔近代〕		一紙
62	〔書簡範例集〕 前欠・途中欠、「寒中見舞之文」などの書簡文範例集	〔近代〕		一紙
63	〔書簡範例集〕 62の欠分、「歳首之文」などの書簡範例集	〔近代〕		一紙
64	〔書簡範例集〕 62、63の写し	〔近代〕		一紙
65	尾陽蜜蔵院葉上瑜伽場結壇許可 大阿闍梨よりの職位許可状	文政6年癸未10月	葉上正統蜜蔵院第四十三世 三部都法大阿闍梨權僧正無障金剛圓阿	一紙
66	三緒五條袈裟依願 三緒五條袈裟の着用免許状	嘉永2年10月	法眼應篤→六度寺仙賀	一紙
67	唄匿卯可状之事 唄匿の伝授に関する印可状	嘉永4年辛亥10月	魚山蓮成院法印大僧都 良海〔→圓境房仙賀〕	一紙 (包紙)

68	誓約書 写 1000日の間、襖・屏風の唐紙を1日に25枚、1枚1錢6厘5毛で認めることの誓約書の写し	明治8年旧3月8日	書認主 宮小路康文・書認引受人 天本茂左衛門・大城茂吉・矢嶋央・浅川呈→三世諸佛様・日本六十余州神様
69	巴調 宮小路浩潮が松ヶ枝筆を賜った際に贈った和歌、浩潮の書を見た際の和歌の書付		小西興堂拝 一紙(包紙)
70	放請 霜月会での堅義の認可状	嘉永2年10月9日	伝灯大法師位仙賀→執当寺家法印養恕・探題前大僧正法印順忍大和尚位 一紙(包紙)
71	〔書簡〕 台湾神社表石の文字の揮毫について、彫刻の際に字格に問題があったため他の者へ揮毫を命じじことを御諒承下されたし	明治24年7月20日	台湾総督秘書官 大津麟平→宮小路康文殿 一紙
72	開壇許可 蜜藏院曼陀羅伽開壇の許可状	文政6年癸未10月16日	葉上正統蜜藏院第四十三世 三部都法大阿闍梨權僧正無障金剛圓阿妙嚴院 一紙(包紙)
73	衣体之事 衣帶木蘭檜皮香の色の着用の許可状	天保2年9月	高辻殿雜掌→六度寺岱賀房 一紙
74	衣帶之事 衣帶木蘭檜皮香の色の着用の許可状	嘉永4年辛亥6月	高辻殿雜掌→光運院仙賀御房 一紙
75	補任 比叡山延暦寺根本如法堂僧綱職における権律師の補任状	弘化3年5月9日	首楞嚴院別當探題前大僧正順忍→ 法橋上人仙賀 一紙
76	〔包紙〕 「衣体補任 六度寺岱賀」とあり		一紙
77	奉願口上之覚 日田において田嶋要右衛門と中村平太夫より太宰府紅梅講発起につき出番のうえ願上のこと	慶応4年辰閏4月	太宰府六度寺→奥山小五郎殿・鶴原九平殿 繼紙
78	僧綱 霜月会での堅義における僧綱の認可状	嘉永2年10月	伝灯大法師位仙賀→従儀師幸昌・大威儀師文煥 一紙
79	補任 比叡山延暦寺根本如法堂僧綱職における権少僧都の補任状	嘉永元年2月8日	首楞嚴院別當探題前大僧正順忍→ 法眼和尚仙賀 一紙
80	阿蘇神社奉額祝詞 阿蘇神社へ奉納額の祝詞	明治18年10月11日	井田幸男 一紙
81	補任 比叡山延暦寺根本如法堂僧綱職における法橋上人位の補任状	弘化2年4月18日	首楞嚴院別當探題前大僧正順忍→ 大法師仙賀 一紙
82	補任 比叡山延暦寺根本如法堂僧綱職における権大僧都の補任状	嘉永2年正月16日	首楞嚴院別當探題前大僧正順忍→ 権少僧都仙賀 一紙
83	袈裟之事 色袈裟着用の免許状	嘉永4辛亥年6月	高辻殿雜掌→光運院仙賀御房 一紙(包紙)
84	〔依頼状〕 天満宮950年忌に際しての寄附(加御供、常灯明、常夜灯など)の依頼状	嘉永4年亥12月日	勅願所太宰府廟官六度寺 一紙
85	〔依頼状〕 84と同内容	〔嘉永4年12月〕	〔勅願所太宰府廟官六度寺〕 一紙
86	天満宮九百五十年御忌万灯寄附姓名帳 6名分を記す	〔近世〕	一紙
87	補任 比叡山延暦寺根本如法堂僧綱職における法眼和尚位の補任状	弘化4年4月18日	首楞嚴院別當探題前大僧正順忍→ 権律師仙賀 一紙
88	三部都法大阿闍梨職位之事 三部都法大阿闍梨職の認可状	文久2壬戌年9月28日	正觀院執行探題僧正 三部都法大阿闍梨法印大和尚位慈校・教授大阿闍梨德王院法印大僧都亮周〔→六度寺法印権大僧都仙賀〕 一紙
89	謝状 扁額題字「立國在商」の揮毫および寄贈に対する感謝状	明治29年9月	名古屋商業学校長 高柳豊三郎→宮小路康文殿 一紙
90	〔補任状〕 天満宮安樂寺政所より六度寺十禪師当職の補任状	嘉永5年2月吉日	知事大法師・修理権別當権大僧都法印三部都法大阿闍梨信全ほか7名→ 大法師仙賀 一紙(包紙)

91	〔補任状〕天満宮安樂寺政所より六度寺十禪師当職の補任状	天保2年12月吉日	知事大法師・修理権別當法眼和尚位 信泰ほか7名→大法師岱賀	一紙 (包紙)
92-1	明治四十二年献詠詩題 明治42年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹撰	一紙
92-2	明治四十四年献詠課題 明治44年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹撰	一紙
92-3	大正三年甲寅献詠詩題 大正3年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	〔吉嗣拝山〕	一紙
92-4	大正四年乙卯献詠詩題 大正4年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	獨臂翁拝山撰	一紙
92-5	明治廿三年聖廟献詠課題 明治23年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	拝山謹選	一紙
92-6	廿九年献詠課題 明治29年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹定	一紙
92-7	明治卅一年献詠課題 明治31年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹選	一紙
92-8	明治卅二年献詠課題 明治32年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹選	一紙
92-9	明治卅三年献詠課題 明治33年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹撰	一紙
92-10	明治卅年献詠課題 明治30年の1月～12月までの献詠課題	丙甲小春	吉嗣拝山謹選	一紙
92-11	明治卅四年献詠課題 明治34年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山敬撰	一紙
92-12	明治卅五年献詠課題 明治35年の1月～12月までの献詠課題	辛丑冬日謹選	拝山	一紙
92-13	明治卅六年献詠課題 明治36年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹撰	一紙
92-14	明治卅七年献詠課題 明治37年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹選	一紙
92-15	明治卅八年献詠詩題 明治38年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山謹撰	一紙
92-16	明治卅九年献詠課題 明治39年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	〔吉嗣拝山〕	一紙
92-17	明治四十年献詠課題 明治40年の1月～12月までの献詠課題	〔近代〕	吉嗣拝山撰定	一紙
92-18	明治四十一年献詠課題 明治41年の1月～12月までの献詠課題	丁未冬抄	吉嗣拝山謹撰	一紙